



岐阜大学教育心理学部  
家政教育講座 座長

### 夫馬佳代子教授

私はが口述生活史の何 青、知識人が中心となり、  
題名が「洋服」を借用し、資料の採集も行った。袖  
ていすが、『西洋文化』の枝(たか)を著書『中、中流地方出身の尾崎

書かれた。

大正期には、西洋校様  
を背景とした物質不足か  
ら簡易服の需要が求めら  
れ、簡便な服装などを  
中心に服装改善運動が起  
こりました。そのような  
中、中流地方出身の尾崎  
学も興味をもちます。

## 衣服から学ぶ生活の創造

戦後を明治以後、新しい  
時代とされている日本は  
自の衣服の創造に心を  
注いだ人々が存在してい  
る。この「探訪」では、

すめは、女性の社会進  
出や体育向上を機軸し  
る形で、機能的な衣服を  
創(つく)り上げようと  
試みたのです。当時の女  
性は服装には「新たな

芳太郎・ひん夫妻は、和  
服と洋服の折衷案を取り  
入れた斬新な創作衣服を  
次々と発表し、普及に努め  
ました。

結局、日本独自の衣服  
を創出する試みは、昭和  
初期の国民服の需要を経  
て、戦後の洋服の普及と  
ともに消えていったので  
すが、新しい生活文化を  
日本人の手で創り出そう  
とした先人の試みは、身  
体的な清潔生活に傾けて  
きた私達にも多くあります。

「探訪」は、探訪を教育  
な(探訪)とした探訪が

「探訪」は「探訪」を  
時代の美意識を「探訪」

初期の国民服の需要を経

て、戦後の洋服の普及と  
ともに消えていったので  
すが、新しい生活文化を  
日本人の手で創り出そう  
とした先人の試みは、身  
体的な清潔生活に傾けて  
きた私達にも多くあります。